

南木康作先生 内科学教室同窓会賞 2019 年基礎研究分野 猿田享男賞を受賞

この度は、栄えある慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会賞 2019 年基礎研究分野 猿田享男賞をいただき、大変光栄に存じます。

私は、消化器内科金井隆典教授、坂口光洋記念講座オルガノイド医学佐藤俊朗教授のご指導のもと、大学院生時代より胃がんのオルガノイド培養の研究に取り組んで参りました。オルガノイド培養は、佐藤俊朗教授がオランダ留学時代に開発した新規の培養法であり、この技術によって、これまで不可能とされていた消化管上皮の半永続的な培養が可能となりました。今回の研究では、この技術を胃がんに応用し、消化器内科・一般消化器外科・内視鏡センター・腫瘍センター等の様々な先生方にご協力を頂き、臨床胃がん検体を集め、極めて臨床上の胃がんに近い胃がんオルガノイドライブラリーを構築することに成功いたしました。このライブラリーの解析を行うことによって、胃がん異常増殖メカニズムの一端を解明し、報告させていただきました (Nanki K et al. Cell. 2018 Aug 9;174(4):856-869.)。この胃がんオルガノイドライブラリーは、今回の研究の解析結果のみではなく、胃がんの研究用ツールとしても非常に有用であります。私達は、このオルガノイドライブラリーを今後の胃がん研究を推進させる原動力とすべく、現在バイオバンクとして他施設においても使用できる体制を整えています。既に国内外の重要ながん研究拠点から分譲の依頼があり、胃がんオルガノイドを分譲した実績があります。

慶應義塾大学には、アカデミアとして基礎研究のシーズの創生を行う一方、大学病院として実臨床に活かせるトランスレーショナルな研究を推進する使命があると感じております。今後も独創性の高い研究を遂行したいと考えており、諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

南木康作（写真後列左）

